

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 6 年度第 1 回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
開催日時	令和 6 年 8 月 2 8 日（水） 1 4 時～1 5 時 1 0 分
開催場所	高松市役所（防災合同庁舎）3 階 3 0 1 会議室
議 題	（1） 会長・副会長の選任 （2） 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績（令和 5 年度） （3） 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員からの意見 （4） その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	
出席委員	長山会長、佐藤副会長、上枝委員、笠井委員、香西委員、土居委員、藤本委員、 星野委員、森田委員、英委員、金江委員、加藤委員、竹上委員、宮内委員、 小山委員
傍 聴 者	1 人 （定員 2 0 人）
報道機関	0 人
担当課及び 連絡先	政策課（087－839－2135）

会議経過及び会議結果
会議の概要は、次のとおり 議題（１）会長・副会長の選任 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、委員の互選により会長が選任され、副会長は会長が指名した。 （会長 長山貴之委員、副会長 佐藤麻衣委員） 議題（２）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績（令和 5 年度） 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績について、事務局から説明し、次のとおり意見があった。 【事務局から説明（資料 3～24 ページ）】 （会長） 近隣に商業施設のない中山間地域では、移動販売車が普及してきている。一方で、買い物難民は、まちなかでは無縁だと思っていたが、最近はスーパーの撤退も見られ、まちなかでも支援が必要な高齢者などへの対応が必要になってきている。 （委員） 人口減少が進むと税収減にもつながり、業務の効率化を図る必要があるため、共通の業務を行っている自治体システムの共有化は急務であるし、ＩＣＴの活用や、ＩＣＴに精通した人材確保は重要である。病院のカルテの共有化も考えられる。

(事務局)

システムの更新時期が異なることがシステム共有化できない一因であると考えるが、税システムの共有化など、取り組んでいるものもある。

(委員)

人口が減少する中、運転手不足から発生する公共交通機関の減便や、技術系の職種の人員不足といった問題が発生している。また、人口増加も望めない中、運行維持も課題である。一方で、屋島の四国村と協力して企画乗車券の発売なども検討している。

(会長)

私も所用がある際は、ことでの志度線を使用しているが、空席が目立っている。公共交通機関はいざという時に頼りになるので、沿線住民が一体となって、公共交通機関を支える知恵を出し合って支えていきたい。

ところで、出生数が急減している中、高松市は公立小中学校の配置の見直しは定期的に行っているのか。

(事務局)

現時点で高松市教育委員会から見直しについて具体的な話は出ていないが、人口が急増している地域もあるので、課題認識は持っていると聞いている。

(委員)

進学や就職を機に県外に転出した若者に、圏域に戻ってきてもらう対策が必要ではないか。また、出産できる人口の減少が消滅可能性都市となる要因のひとつとも考えられるため、若者に向けて、地元を好きになって住んでもらえるような対策が重要である。

(事務局)

人口減少は全国的な問題であり、関係人口・交流人口の増加させる取組を進めている。

また、地域に対するシビックプライドの醸成も幼少期から必要であると考えており、そのような取組を推進していきたい。

(会長)

就職先があることが前提だが、一定の所得を得られる環境があれば、地域への愛着は重要である。交通利便性が高まっている今、通勤距離は伸びるが、遠方まで通勤は可能なので、職住近接の環境や、隣の町や島へ通勤することも選択肢としてあり得る。圏域全体で機能分担しながら、自由に居住地を選択できるようにすることも考えられる。

(委員)

さぬき市が新たに瀬戸内国際芸術祭 2025 の開催地となり、作品展示会場が志度と津田に決定している。高松空港からさぬき市までワンストップで行けることが最善だが、公共交通機関でさぬき市に来てもらいやすくするサービスがあればよいのではないかな。

(委員)

高松空港で、観光客を対象に、リムジンバス往復乗車と、ことடன்全線乗り放題のセットの企画乗車券を発売しているが、好評であるので、周知に力を入れていきたい。

(事務局)

公共交通機関の観点も念頭に、瀬戸内国際芸術祭を契機として周辺自治体も周遊できる仕組みづくりを検討していきたい。

(会長)

島以外の会場は車や公共交通機関を使用する印象を持っている。経済波及効果は宿泊地によって大きく異なるが、周遊してもらうことで経済波及効果が周辺市町にも及ぶことは意識する必要がある。

(委員)

地域全体を盛り上げる広域的な取組は素晴らしい試みである。また、評価方法の見直しも非常に良いことである。

一方で、評価が低い事業も 4 事業あり、成果指標自体が妥当かと思うところもある。評価を上げる方法や成果指標の見直しも必要ではないかな。

(事務局)

今回御説明した評価は第 1 期ビジョンの取組の評価である。第 2 期ビジョンでは連携事業や成果指標を見直しており、今後も随時見直ししながら進捗管理を行ってまいりたい。

(委員)

「在宅医療・介護連携推進事業」の評価は、研修会参加者アンケートを基に評価する主観評価となっているため、参加者の意識や目標が非常に高く、不十分と感じられていることが評価に出ている。成果指標も参加職種数や市町からの参加者数等、他の成果指標を取り入れると変わってくる。

(事務局)

第 2 期ビジョンでは、成果指標を「多職種連携研修会等の参加者数」に変更している。

(会長)

主観評価より客観評価の方が、活動量が明確になることに加え評価が安定する。

(委員)

MICE 開催だけでは人口減少対策につながらないかもしれないが、関係人口・交流人口の対策には十分なり得る。MICE が開催されると最長で 1 週間程度滞在するので、経済波及効果も大きい。MICE 終了後のエクスカーションやアフターコンベンションで使える訪問先や体験場所があれば、MICE 参加者に情報提供ができるので、連携市町と連携したい。

(会長)

圏域や香川県内で小旅行する企画は立てやすい。情報提供・共有は必要である。

議題（３）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員からの意見

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員からの意見について、事務局から説明した。【事務局から説明（資料 25 ページ）】

議題（４）その他

(会長)

オブザーバーから意見等があれば発言願いたい。

(オブザーバー)

香川県では県民 100 万人計画に取り組んでおり、若者に留まってもらうためには働く場の確保が必要だと認識している。従来より、企業誘致は香川県が用地造成していたが、土地の確保が間に合わないため、民間の用地造成も補助に加えるなど、様々な企業誘致に取り組んでいる。

また、K-MIX R（かがわ医療情報ネットワーク）にも注力している。本日の意見も参考に、引き続き取り組んでまいりたい。

(会長)

事務局から周知事項等あれば発言願いたい。

(事務局)

今後のスケジュールについて、事務局から説明した。【事務局から説明（資料 26 ページ）】

以上